SSKW 2002年4月23日第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）
2014年3月24日発行ＳＳＫＷ増刊　通巻第3242号

こぶしだより グッとくる

Vol. 363
2014・3・15号

1年がかりで完成させた「龍の日光彫」です。この写真を見て興味を持ってくれる仲間が増えるとうれしいです。みんなで気合い入った作品作って年に1回展覧会をやりましょう。彫り仲間募集中。問合⇒上三川ひまわり・松枝まで。展示即売会して工賃あげますか！

【400字で語る福祉⑬】
関わり続ける 関係性の中で光るもの

◎新井みゆきさん
（チャレンジセンター　ジョブコーチ）

何かを見つめようとするとき、それは対比の中でこそより鮮明になる。福祉を考えるときには福祉の世界を離れることで初めて見えてくるものがある。

福祉の世界の中で感じるあれこれを自分なりに総括して「これが福祉か」と考えることは空虚だ。陥りがちな自己本位の罠には気をつけなければいけない。

例えば・・・福祉と対極の価値観・環境の中にいる人から「あなたは福祉の人、でも私たちはね・・」と語りかけられたとしたらその瞬間から“福祉”という言葉は生きた意味を持ち始める。全ては（それがただの言葉であったとしても）関係性の中でこそ鈍く光り始める。定義を持たないその概念がゆっくりと動き出し長い時間をかけてひとつの方向に向かっていくその過程こそが私たち全ての存在が生きている間に学ぶべきものだ。誰かと向き合い何かを交わし合うことでお互いの心の奥底に刻み込まれるひとコマひとコマが真の福祉だと信じて・・・今日も誰かと関わり続ける。

●幹部研修報告（第1回）…2－4
●400字で語る福祉　⑬新井みゆき（チャレンジセンター・ジョブコーチ）⑭関口貴士（けやき作業所支援員）⑮早乙女未来（けやき作業所支援員）⑯東岡裕紀（地域活動支援センターほっと CHA 相談支援員）⑰神山志帆（こぶし作業所主任）…1－5
●就労チャレンジ検討会……5
●新・たまみシュラン【そらまめ食堂】…6－7
●報告／「第2けやき」が移転／テレビ寄贈／コンビニに「ピケのお菓子」が…8
●一般就労者の現在　●ギャラリーこぶし…9
●こぶしづかん……10
●連載【社会モデルを地域文化に 12】…11
●事業所一覧　●おのぶくろう…12

幹部職員研修（報告）

理念やビジョンの実現のために先頭に立ってがんばれる人材。それを全体の力にするためにチーム力・連携力が必要。

こぶしの会の中枢を担う幹部職員に行われる幹部職員研修。組織をまとめるべく期待されていますが、その目的、内容と、今年度取り組んできたことなどを高橋温美常務理事に寄稿いただきました。

視察・講義・レポート…紆余曲折の「舵取り役」育成

法人が大きくなっていく中で、組織の中心となる人材育成が重要視されるようになり、第二次中長期計画において教育研修委員会を発足させました。その役割の一つとして、幹部職員研修も位置づけられることになったのですが、それは前途多難な道のりのはじまりでもありました。元を正せば、そもそも幹部職員向けの研修を企画すること自体が難題だったからです。要は、幹部職員自身が「しっかりしないといけなかんべ」と、思っていることを前提とした中で、組織の中心となるべく力をさらに高めてほしいとの願いをかぶせたからです。

研修の初年度（平成21年度）は、法人外から講師の方をお招きしての講義を年二回実施しました。次年度は、所長、主任を含め、先進的な事業運営を行っている事業所への県外視察、文献学習等を行い、レポート作成から発表まで多岐に渡りました。しかし、それは研修を管理する部長クラスが苦労することになりました。法人の通常業務と並行しながら、研修を取りまとめることの困難さに直面してしまいました。その翌年からは今後の研修の在り方を模索することとなりました。紆余曲折を経て、今年度は研修テーマを幹部各人個々に設定するのではなく統一し、第三次中長期計画の策定と次年度の事業計画をどのように立てるのかを盛り込み、最終的に各幹部職員が提案する形で取り組んできました。

4人の講師を招き、多角的に「社会福祉法人の役割」と「障がい者福祉」を捉えた

今年度の幹部職員研修では四人の講師をお招きしました。障がい者福祉関係者だけではなく、異業種の方々の先進的な事例を学ぶことにより、多角的に社会福祉法人の役割とは何か、障がい者福祉とは何かを捉えることができないかと思ったのです。以下に要旨のみお伝えします。

講義Ⅰ〈行政依存の社会福祉法人〉

元県職員で栃木県社会福祉士会会長の**檜山光治**さんからの「厚生労働省での法の議論」の講義は、行政の立場から見た行政枠みに陥っている社会福祉法人の運営の在り方そのものへ警鐘を鳴らすものであり、身につまされました。地方自治体の財政は厳しい状況にあり、社会福祉法人と言えどもこれまでのような行政頼みの運営から転換を図る必要があるのです。

講義Ⅱ〈多岐にわたる事業展開。どうしてこれほどまでに違うのか〉

同業種であるＮＰＯ法人チャレンジド・コミュニティの理事長**金井光一**さんからは、同業種ではありますが、福祉サービスだけに留まらず、パンやカフェ等の店舗経営も行っており、視野の広さと新鮮さを感じることができました。平成18年の設立以降、多岐にわたる事業を展開しており、どうしてこれほどまでにこぶしの会と違うのかと考えさせられています。社会福祉法人である自分たちは地域に何ができるのかと…。

講義Ⅲ〈社会福祉法人はお金になる仕事しかしていない〉

認定ＮＰＯ法人とちぎボランティアネットワーク事務局長の**矢野正広**さんからは、社会福祉法人の実際と限界を率直にお話いただきました。「社会福祉法人は、お金になる仕事しかしないでしょう。地域で本当に困っている人の支援はボランティアが行っている。『福祉』というのは、人間と人間の関わりなのである。」

講義Ⅳ〈新たな貧困の形、社会病理としての虐待、貧困の世代間連鎖〉

社会福祉法人養徳園「児童養護施設養徳園」園長の**福田雅章**さんからは、児童養護施設はいまの社会問題を表しており、新たな貧困の形、病理とも言うべき虐待の増加、社会全体の構造が変化し、貧困が連鎖している現状を丁寧に説明していただきました。自立援助ホーム「星の家」も、児童養護施設と連携して対応していることを聞き、そういった活動を学ぶことで、社会福祉法人の使命とは何なのかを知る手立てとなりました。

◆　◆

幹部職員としての力をつけていくためには、法人の理念やビジョンの実現のために先頭に立ってがんばれる人材が必要になります。また、各人ががんばるだけではなく、その持っている力を法人全体の力にするために、チーム力・連携力をつける必要があると思っています。

いま求められているのは、制度対象外の人のニーズに応えること

2000年の社会福祉基礎構造改革以降、介護保険制度の規制緩和等、時代の変遷とともに、国民の期待に応えられているのだろうかとの焦りがある。社会福祉法人は決まりきったことしかしないとも言われています。措置制度から契約制度への転換、福祉サービスにおける多様な経営母体（企業、ＮＰＯ法人等）の参入等、社会福祉事業における法人としての役割、経営の在り方等について見直しの必要性が求められています。そうした動きの一つとして、厚生労働省により社会福祉法人の在り方等に関する検討会が平成25年9月からこれまで6回開催されています。こうした社会福祉法人に変革の情勢を私たちは押さえておかなければならないのです。

経営というのは本当に大変なことではありますが、不採算事業でありながらもニーズにどう対応していくかも課題であり、制度の枠の中で解決できなかったことをどのように解決していくのか、いま求められていることは、制度の対象とならない人たちのニーズにどのように応えていくのかとも言えます。

また、制度に則ることで運営はできてしまいますが、制度が貧しく、そこで働く職員の賃金も低く大変な職場です。新しい人材も来にくく、人材の質を維持するのも大変なんです。いま経営の中身を変革しなさいと言われているのでしょう。そのような中、対応が難しいケースも増えており、対策が取りきれていない現実があります。

仕事とは社会が求めるから成り立つもの。すべての研修は、実践のスタートラインの土台を作るもの。

幹部研修で学んだことを教養の取得だけでは終わらせずに、実践の支援につなげていかなければなりません。

今年度の幹部職員研修は、レポート作成ではなく次年度の事業計画を各自が立てることとしました。そして、それを持ち寄り実践につなげるまでの仕組みにして行きたいと思っています。各自の考え方をやり取りし、二月に計画の骨子を示して、それを各事業所で練り上げ、次年度に反映させていきます。ご期待ください。

研修を行い、実践に移し、決めるものを決め、学び修正していきます。研修を聞いて良かったで終わらせず、知識の獲得だけではなく、何ができて何ができないのかを再認識する痛みを伴うものとします。しかし、結集した力で一つの方向性を示すことができ、研修を行いながら共通するものを確認していくことができます。知るところから福祉は始まるのです。それぞれの価値観の違いも重要なことではありますが、組織で決定しないと前には進まないのも事実です。労働とは、社会的有用性があって認められるものであり、反対意見、保留される意見も大切であると思っています。部下は上司に従い、少数の意見があっても大多数の意見で進めることもあります。仕事とは、自分がやりたいからやるというのでは成り立たちません。社会が求めるものに応えるからこそ対価を得られるのです。全ての研修は、実践のスタートラインに立つ土台をつくるものなのです。

◆追記◆　今回は、幹部職員研修の主催者である高橋温美常務理事のお話を掲載させていただきました。次回は、研修を受講した幹部職員または講師の方の取材に伺いたいと思います。（菊池）

400字で語る福祉⑭
◎関口貴士さん（けやき作業所・支援員）
その人が自分の幸せのために頑張れるような手助け

改めて自分にとっての福祉とはと聞かれると正直考えさせられました。日々の業務の中でなかなかそういったことを思いながら行っていなかったと思います。初めの印象では人を助けてあげるといった上から目線で考えていましたが、そうではなく、手助けをさせていただくといった気持ちがなければその人の本当に望んでいる事は見えてこないのだと感じました。

今思う自分にとって福祉とは、何らかの原因で困っている人の力になるためにあるものだと思います。当事者のことを一番に考えその人が様々な幸せの為に頑張れるように社会的資源などを使い手助けをさせてもらうこと。福祉の意味は辞書やインターネットで調べればすぐにわかると思いますが、自分なりの福祉も大切にしてこれからも日々頑張りたいと思います。

400字で語る福祉⑮
※職員が400字で思っている“福祉”を語ります。
◎早乙女未来さん
（けやき作業所・支援員）
実践と検証の繰り返し…いまだ正解みえず。

このようなテーマで何かを書くのが卒業以来で久々なので非常に悩みました…。

同じ福祉の仕事に就いた友人とよく話すのは「不正解があっても、正解がない」ということです。これは特に支援場面で感じています。自分の声かけ一つで、不安定になってしまったり、作業への参加を中断させてしまったり、間違いははっきりと分かる形で示されるのに、ここでこうするのが正しいという答えが、いつまでも見つからないことばかりです。ある方には「支援は実践と検証の繰り返しである」と教えていただきました。まだ自分には、経験・知識ともに足りないために正解が見えずに、間違いに囚われ過ぎている部分もあると思います。また今は支援に手一杯で「福祉＝支援」としか考えられません。実践と検証の繰り返しで、経験を積み重ね、もっと余裕もできる頃には「福祉」についても、もっと広い意味でじっくり考えられるのかな…と今回、書きながら感じました。

就労チャレンジ検討会

初の顔合わせ。8つの就労支援事業所と特別支援学校、職安で情報交換会。

2月27日、チャレンジセンター内で就労チャレンジ県東会を開催しました。この会議は、障がい者の一般就労に向けた就労支援を地域全体で活性化させていくために、県東圏域内（真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町）の就労支援事業所（就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援）、益子特別支援学校、真岡公共職業安定所が一堂に会したものです。はじめての開催となりましたが、8つの就労支援事業所、益子特別支援学校、真岡公共職業安定所の担当者の方が顔を合わせることができました。

400字で語る福祉⑯
◎東岡裕紀さん
（地域活動支援センターほっと CHA　相談支援員）
「共生社会」を作ること。理解の発信地に

私が考える「福祉」とは「共生社会」を作っていくことだと思う。障がいがあっても高齢になっても地域で当たり前のように暮らせる社会を陰ながら作る手伝いをしていきたい。そのためにはまず福祉に携わる私たちが障がい者に対する理解を事業所から発信することが必要かと考えている。そのツールの1つに「きょうされん」があり物資販売や請願署名活動を通じて現在の障がい者の置かれている現状を伝え、「障がい者が生活しやすい社会は子供からお年寄りまで生活しやすい、弱者と言われる方に優しい社会＝共生社会」を目指していくことを皆で確認していきたい。

私がこれからもできることと言えば「利用者の強みを生かした利用者の暮らしやすい生活を一緒になって考え、皆で地域で支えていく。そのためには学習・研修も積極的に参加する」「地域に開かれた事業所にしていく」ことを心の中で思いながら日々業務に従事していきたいと思う。

400字で語る福祉⑰
◎神山志帆さん
（こぶし作業所主任）
「生活が安定すること」「精神的な満足感を得ること」を手助けすること

「障害者、高齢者、こども、社会・経済的弱者などが必要としている物事を提供すること・助け合うこと」なんとなくイメージするのはこんなこと。でも具体的には？そもそも必要としていることって？あらためて考えてみた。

［ご飯を食べること。社会に出ること。お風呂に入ること。洗濯をして着替えること。暖かい布団で眠ること。］
など生活の安定を求めること。
［楽しむこと。やりがいを感じること。必要とされること。］
など精神的な満足感を得ること。

これらのことを一人ではできない、方法がわからないという人の手助けをすることではないかと思う。

今の日本でこれらのことを必要とする人で、満足できている人がどのくらいいるのか。社会の中で当たり前に受け入れられて、当たり前にやり取りできる社会になることを目指していかなければならないとあらためて感じた。

ちょっと　こぶしだよりを振り返って【編集長雑記】

牧岡健

こぶしだよりの編集長を拝命してはや2年。手書きから始まったというこぶしだよりも363号を数えるまでになりました。超強力なアドバイザーＴＶＮのＹさんの指導と試行錯誤の末、たどり着いたのが賛否両論のフルカラー版でした。白黒から2色に変えるのが精一杯かなぁと思っていた私の背中を360号の巨匠長田画伯の絵が押してくれた結果でありました。何事も背中を押す一手が既存の概念や固定観念を変え、新しい一歩を作るんだと実感しました。驚くなかれ、362号からのつるつるピカピカてかてか印刷はコストパフォーマンスが良く、実は安くできるのです。やってみなくちゃわからないことってたくさんありますね。

批判の嵐を声援と受け止め、新たなこぶしだより作りをいっちょがんばってみます。

こぶしだよりの感想やご意見いただけたら嬉しいです。
●〒329-0611　栃木県河内郡上三川町上三川 5082-15
●Mail　makioka@kobusi.or.jp（牧岡 宛）
●上三川ふれあいの家ひまわり内・こぶしだより編集委員会

たまみシュラン　そらまめ食堂に行ってきました～！

NPO法人 手仕事工房そら

さぁ～て今回も登場！たまみシュラン二代目MAYuです。今回のお食事処はNPO法人　手仕事工房そら「そらまめ食堂」です。私が仕事をしている某事業所から「お食事が美味しいだけじゃなく、メルヘンチック空間でアットホームな場所だよ」との声があり、メルヘンチック！気になる！行ってみたーい！ということで肌寒い日でしたが、空が青く晴れ渡った1月23日「そらまめ食堂」へ行ってきました！雰囲気と居心地がよく、一度行ったら忘れられない場所になること間違いなし。皆様も是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか？それでは、ご紹介いたします。
（おいけ＆おの）

【そらまめ食堂の歩み】

2011年、益子町のNPO法人「手仕事工房そら」では利用者と共にリサイクルや内職の活動を行っていました。しかし、利用者の工賃アップにはつながらず、どうしたら良いかと考えていたそうです。そんな毎日の中で、お菓子やパン作りに興味がある調理師の職員を中心に、食に携わるしごとをしよう！という話が持ち上がり、利用者さんの親御さんが経営していたお蕎麦屋さんの店舗を貸していただけるお話と相まって食堂経営を決断したところがはじまりだそうです。

理想の空間を作り出すために内装業者には頼まず、職員と利用者で畳みをフローリングに張替え、室内にあった屋根をバールで剥ぎ取り、壁を塗り替え、外の看板もカッティングシートで貼り替え、時にはケガをしてまで、少しでも理想に近づけるように努力した3か月の改修工事の結果、めでたく2011年10月5日に「そらまめ食堂」オープンの日を迎えました。

▲「焼きカレーセット」：トロットロのチーズにハンバーグとスパイスの良く効いたカレーが絶妙にマッチした逸品です。

●「おねえさんランチ」：フワフワのオムライスと具だくさんの野菜スープ。もういい大人なのだろうしても「おこさまランチ」が食べたい…とおっしゃるわがままな女の子に大人気！

・木を利用した手作り雑貨を作ってます。注文受け付けてます。おひとついかが？

●スタンプラリー●そらまめ食堂では月替わりスタンプラリーを行っています。毎月出る月替わり商品のご注文で、スタンプがもらえます。1月～6月までのスタンプをもらったら、なんと、月替わり7月商品が無料になります。このカードを貰うにはそらまめ食堂にいるコイケ会長を探さなくてはならないというミッションがあります。コイケ会長以外はカードを配布していただけません。残念ながら今回は1月にスタンプカードの配布が終わってしまいましたが、次回7月からまた始まります。その時は、初めてご来店の方もお気軽にコイケ会長に話しかけてみてくださいね。

★クーポン★★★★
★こぶしだより持参のお客様にミニデザート（ミニクレープ、ミニあん蜜、マンゴプリンのいずれか1つ）をサービスします。お食事の方のみ有効。★お店の都合でサービス中止の場合もあります。ご了承ください。

そらまめ食堂
●栃木県真岡市田町 2560-4
●TEL/FAX0285-82-5550
●月～金 10:00-17:30、土 10:00-19:00
●ランチタイム 11-14時（ドリンク付）
●日曜定休

【そらまめ食堂ってどんなところ？】

―おすすめポイントは？
・落ち着いた温かい雰囲気と心安らぐ音楽です。お客様が居心地よくなる場を心がけ、障がいのあるなしに関わらず、体と頭を動かしてます。

―お店の特徴は？
・お店の奥に絵本やままごと遊びのグッズがそろうフローリング貼りのお座敷があり、お子さんと一緒に来てもゆっくり楽しめるようになっています。お店の入口には雑貨コーナーもあり、交流のある障害者施設や地元の作家さんたちがつくった、小物や焼き物などを取りそろえています。こぶしの会「セルプ・みらい」のお菓子やポチ袋も置いてありますよ！

―何人で働いているの？
・オープン当初3人だった利用者と職員も、現在は利用者10人、職員8人に増え、ローテーションを組んで営業してます。

―おすすめメニューをおしえてください
・1位はカレーセットです。数種類のスパイスを配合することで、コクと深みのある味わい深い本格的なカレーに仕上がっています。
・2位は親子丼セットです。特製ダレのうまみと仕上げにこだわったフワッ、トロッの卵が自慢です。
・番外編では女子高生に人気の豚キムチ丼セットです。

報告

イブの日にテレビの寄付。ありがとうございます

「セルプ・みらい」前後援会会長（現在は援会会員）でありボランティアの岸さんからクリスマスイブの日（12/24）に32型の大きなテレビを寄贈して頂きました。

早速、テレビを活用させていただいたところ、今までのブラウン管テレビとは違い、薄型液晶テレビなので綺麗で軽くて取扱いも簡単でとても便利です。
仲間の皆も大きなテレビに大喜びでした。
岸さん、本当にありがとうございました。

第二けやき作業所　移転します。現在内装工事中！

東日本大震災から3年が経ちました。こぶしの会の施設の中で、事業所を移転することとなった第二けやき作業所は、旧こぶし作業所（宇都宮市柳田町）に仮の事業所として移転して約3年を迎えようとしています。

事業所の利用者は第二けやき作業所があった芳賀町周辺が大多数を占めており、芳賀地区から宇都宮までの送迎を考えると、乗っている時間が長い利用者では往復5時間ほどの移動時間です。通勤の関係から来所できなくなった方がいたり、作業所での活動時間が短くなるなど、いろいろな課題を抱えながら3年を過ごしてきました。その間に移転先を候補地をいくつか探してきましたが、なかなか条件に合う場所がありませんでした。

そんな時に、けやき作業所等後援会の鈴木会長から「自社で使っていた場所が空いている」というお話をいただき、その場所をお貸しいただけることになりました。住所は芳賀町祖母井 1704-18番地で、けやき作業所にも近く、利用者が通う場所としても遠くないところです。現在は内装工事中ですが、3月の上旬には完成をする予定です。これからの第二けやき作業所が地元で地域の利用者が活動できるように進めていきたいと考えています。
（第二けやき作業所　所長中村）

コンビニに「ピケのお菓子」が並んだ!! 仲間の挑戦と工賃アップに乞うご期待。

2月13日から「ピケのお菓子」をセブン－イレブン真岡長田店で販売させて頂くことになりました！　これは、セルプ・みらいの営業・販売担当として“ピケのお菓子をもっと多くの人に食べて欲しい”“ピケのお菓子をより良いものにしたい”どうしたら良いのだろう“と考えながらコンビニのお菓子を購入していた私は、「ピケのお菓子も並べてみたい！」と思ったのがきっかけでした。思いついたが吉日！　早速お店を訪問して話をさせていただきました。パッケージやアレルギー表示の確認など課題はありましたが、お店の担当者の方や主任の応援も受けて実現にこぎつけました。わずか7日間でのスピード実現でした。

店頭に並ぶ商品は、「ブール・ド・ネージュ、ブール・ド・フレーズ、ブール・ド・ジョーヌ、ブール・ド・ヴェール、バニラクッキー、ココナッツクッキー、マドレーヌ、クラシックショコラ、ＳＬサブレ」の9品目。ＳＬサブレ（630円）以外は全て150円で販売となります。

ご協力頂きました真岡長田店の野沢店長様はじめ、エリアマネージャーの藤江様・サブマネージャーの岩井様に厚く御礼申し上げます

こぶしだよりをご覧の皆様には、ぜひセブン－イレブン真岡長田店へお立ち寄りいただき、心を込めて作り上げましたピケのお菓子をどうぞご賞味下さい。今後は、引き続きおいしいお菓子作りに努めて行くと同時に、セブン－イレブン様向けの新しい商品を検討したいと思っております。そして、他の店舗への営業にもチャレンジしようと計画中です。

GALLERY KoBuShi

宮大工の父を真似て。

真摯な姿、龍の姿、「カッコイイ！」

久しぶりに、上三川ふれあいの家ひまわりにお邪魔しました。今回は事前情報なし。「ひまわりに行く」ということだけで、誰の、どんな作品なのかも取材当日のお楽しみという算段。そこで待ち受けていたのは、松枝一久さんが作っている龍のお盆。5種類の彫刻刀を駆使して創り出された龍の姿に、思わず「かっけー！」もとい「カッコイイ！」の言葉を発してしまいました。今まで「カワイイ」や「ステキ」という作品はありましたが…「カッコイイ！」と言ったのは初めて。元々手先を使うこと、細かい作業が好きだったという松枝さん。宮大工（神社仏閣の建築の大工さん）の父親を、いたずら心で真似したことがきっかけとのこと。木の面のやわらかい部分とかたい部分の力の入れ加減が難しいと話しつつも、まっすぐな目で真摯に取り組んでいる姿が印象的でした。実はまだ完成度は80％くらいとのことで、これからバリを削り、色を塗り、ニスでつや出しをして完成のようです。次の作品はもっと大きなサイズで、七福神を作りたいと語ってくれました。最後に松枝さんに教えていただきました。龍の目は最後に描き入れるのだそうです。最後に、魂を入れるという意味だとのこと。勉強になりました！（まつもと）

働くうえで大切なのは「無断欠勤しないこと！」　一般就労者の現在

勝手に芳賀赤十字シリーズ（後編）

諸々の事情で、今回も芳賀赤十字病院への取材となりました。前回登場の小坂さんに「最高の相方」と言わせた末吉麻紗子さん（写真左）を紹介します。一人の写真を撮られるのも頑なに拒否されるほど、とてもシャイな彼女。緊張しながらも取材に応じてくれました。

―今のお仕事内容を教えてください。
「小坂さんと一緒です…」（確か、廊下やラウンジやトイレの清掃でした）
―仕事で大変なことや辛いことはありますか？
「体調の良くない時が…」
―確かにそういう時、辛いですよね。どう対処していますか？
「家族の職員の方に相談して…今はそれで解決できています」
―初めてのお給料で、何を買いましたか？
「自分に、ケーキを」
―ご両親、喜んだでしょうね。では働いていく上で末吉さんが大切だと思うことがあったら、教えてください。
「…（しばらく考えてから）無断欠勤しないこと！」

なかなか思うように話せなかった様子の末吉さんですが、一生懸命に答えようとしてくれたその姿勢だけでも、十分感謝、感謝です！

◆　◆

芳賀赤十字病院は2回連続での紹介となりましたが、今回は雇用者側の方のお話も聞くことができました。（総務課・業務係長）神保一郎さんより

「障がい者雇用は初めてということで、コミュニケーションをうまく取っていけるか、こちらからのアプローチを正しく理解してもらえるかという不安はあり、対応していく上での課題だと思っていました。実際にやり取りをしていくうちに理解でき、いい信頼関係を築けるようになったと思います。範囲は決して広くないですが、前向きに手抜きをせず手順に従って一生懸命やってくれて大事な戦力になっています。清掃という業務も、障がい者の仕事として合っているのではないのでしょうか」

やはり、コミュニケーションって大切なんですね。（取材・松本）

【こぶしづかん＝辛夷図鑑】こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を各回ご紹介。

わたしのおすすめの本　こぶしづかん

見るだけ。自分で物語を作る本！

増田加莉（ますだ・かよ）さん　セルプ・みらい生活支援員

お世話になった先生から勧めてもらい、本屋で取り寄せてもらったというこの本。字が一文字もなく、絵だけのため、一言で言うと“自分で物語を作っていく正解のない本なんです。”とのこと。早速、本を見ながら話を聞かせていただくと、子供から大人まで楽しめる素敵な本であることが分かりました。

繊細な絵が大好きでこの本に引き込まれ、じっくり落ち着いてみるととても面白いんです。何度も何度も読み返していく中で、同じ人が別のページにも現れているとか、ページをまたいでストーリー仕立てになっているとか、実は有名な名画の一部が溶け込んでいるとか、会話も想像しながら見るので、読むたびに自分で物語を作ったり、違う発見があったりで本当に楽しい本なんです。

と増田さんの話を聞きながら、私も早速この絵本に引き込まれ素敵な本を紹介していただけたことを嬉しく思いながらあっという間に時間が過ぎてしまいました。

最近、休日にはまっていることは…温泉・道の駅で野菜を買う、食事をすること。中でも、大田原市の“佐久山温泉きみのゆ”がお気に入り。日帰りがメインなので県内が多いそうです。（取材：長谷川）

旅の絵本
～中部ヨーロッパ編～
●安野光雅／著
●福音館書店／1470円。
ヨーロッパの豊かな自然と美しい街を背景に、繊細な筆使いで旅で出会った楽しい世界を描き出した絵だけの本。

「活字は…好きではない」ので…ディズニーの話で時間が過ぎていきました。

堀内和幸（ほりうち・かずゆき）さん
こぶし作業所支援員

本のタイトルそのまま“ディズニーファン”の堀内さん。ディズニーランド・ディズニーシーが大好きで、時間があれば行きたい！多いときには月4回行くこともあるとか。

この本からは、ディズニーランド・ディズニーシーのパレードとショーの情報を主に得るそうです。情報誌であるため本の話はこの程度。堀内さんのディズニーリゾートの楽しみ方はというと…ショーやパレードを観て食事をすることがメイン。パレードのために最前列の席を取って観るのが好きだが、最近はお子さんと一緒のため、なかなかそうもできなくなってきているといいます。一眼レフカメラでキャラクターのアップ写真を撮ることにはまっていて、中でも、ハロウィンとイースターの季節の衣装がとても魅力的。他にも季節ごとのグッズ、バッジを集めにもはまっていて、徐々にコレクションも増えてきているとのこと。好きなキャラクターはドナルドダック！！　いたずらっ子ぶりがイイ！

活字の本を読むのは好きではないので…と、ディズニーの話で時間が過ぎてしまいましたが、最後に趣味をご紹介。調理師の資格を持っていて、この仕事につく前から料理が大好き。自宅でも料理をしています。得意ジャンルはイタリアン。特にパスタが得意だそうです。

Disney FAN
（ディズニーファン）
●講談社／編集・発行
ディズニーリゾートの最新トレンド情報誌。タイムリーなディズニー情報満載で、ディズニーファンの必読書。
ディズニーストアをはじめとしたキャラクターグッズも盛りだくさんの情報誌。海外のディズニー情報も掲載されています。

障害ある人の中の自分、自分の中の障害や病気
―そして全ての人々の中にある社会の障壁―

社会モデルを地域文化に
（連載第10回）

高橋温美
（こぶしの会常務理事）

社会的病理を見つめ、関係性を変える。自身がその主体であることの自覚。

国による変革だけでは共生社会は望めない。

病理の源を見失わない。その中での具体的な行動。

自身の中に他者を見る。障害を見る。それが人間の平等性の根拠かも。

興味は尽きない。人間性への追及

こぶしの会事業所一覧

宇都宮市
芳賀町
123号線
上三川町
真岡市
352号線
北関東横断道路

① 宇都宮市柳田町 1401
□こぶしの会法人本部
028-613-3707　（Ｆ）028-666-6128
028-666-0418（居住生活支援事業部）
□第2けやき作業所
028-680-5937　（Ｆ）028-680-5938
② 宇都宮市茂原町 837-1
□こぶし作業所
028-653-1020　（Ｆ）028-688-1121
□障がい者生活支援センターこぶし
028-613-5703
③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
□けやき作業所
028-687-1040　（Ｆ）028-677-5789
□地域活動支援センター「ほっと CHA」
090-7820-9165
④ 真岡市亀山 1043-23
□セルプ・みらい
0285-81-1155　（Ｆ）0285-81-1177
⑤ 真岡市荒町 3-9-5
□県東ライフサポートセンター真岡
0285-83-2567　（Ｆ）0285-85-8055
□お菓子工房　ピケ
0285-81-7091　（Ｆ）0285-81-7092
⑥ 真岡市荒町 111-1
□県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
0285-85-8451　（Ｆ）0285-85-8452
⑦ 真岡市荒町 110-1　市総合福祉保健センター内
□芳賀地区障害児者相談支援センター
0285-80-7765　（Ｆ）0285-80-7765
⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
□上三川ふれあいの家ひまわり
0285-38-6821　（Ｆ）0285-38-6841
□上三川町障がい児・者生活相談支援センター
0285-38-6854
□アトリエ・ド・パン　シュシュ
0285-56-7731　（Ｆ）0285-56-7732
⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
□おらがそば茶屋
028-680-5091　（Ｆ）028-680-5092

おのぶくろう
小野袋：文●小野敦生

二日酔いの事前・事後対策

年度が切り替わると、歓送迎会などでお酒を飲む機会が増えますね。飲み過ぎ対策と二日酔い対策をお教えします。

まず、二日酔いにならない飲み方。①空きっ腹で飲まない：飲む1～2時間前に牛乳やチーズなどの乳製品をとると胃をアルコールの刺激から守ってくれます。②適量を知る：勧められるがまま飲んだり、調子にのって飲み過ぎてはだめ。③ペースを守る：最初からハイペースで飲まない。ペース配分を誤ると大変です。④料理を食べながら：お酒だけだと肝臓に負担がかかる上、大変酔いやすくなります。料理も一緒に口にしましょう。肝機能を高める枝豆・冷ややっこ・焼き鳥、アルコール分解のパワーとなる果物・チョコレート、分解の途中で使われるビタミンやミネラルを含むサラダ・野菜の煮物がおススメです。

それでも二日酔いになったときは、コレが効く！！　①コーヒー：カフェインは二日酔いの頭痛に有効。利尿効果も促します。②日本茶・柿：タンニンは荒れた胃の粘膜を修復。③「ビタミンC：アルコールの分解や代謝を促進。④良質なタンパク質：調子が悪くても、何か口にした方が酔いは早くさめます。

のんべえの皆様「Jカーブ効果」というお酒のいい効果がありますので調べてみると安心できるかも？　最後に…皆様絶対に飲酒運転はしないでくださいね。

【編集後記】

●立春を過ぎてからの降雪。雪道の運転は慣れないので運転を考えると憂鬱ですが、積もった雪を見るとワクワクしませんか…？休日だったこともあり、“かまくら”を作りました。子供の頃に作った記憶はそんなにはありませんが、童心にかえって遊んでみました。暦の上では春。早く暖かくならないかな…（長谷川）

★学生の頃は慣れ親しんだ学校の卒業やクラス替えの時期が苦手でした。社会人になってからは学生ほど大幅な変化はないので気持ち的に楽ですが人事異動などがあるとやっぱり寂しいです…慣れ親しんだ人と一緒にいたいという気持ちは仲間も一緒みたいですね。出会いもあるから別れもあるのですが…難しいところです。（尾池）

◆バレンタインのうわさ…男性から花束を女性にプレゼントするように今年から変わってきているそうです。本場フランス式だそうです。チョコはどこ行ったの？と思う人もいると思いますが、チョコは女性が美味しいチョコを自分へのご褒美の為に買うそうです。フランス式は男性に厳しいですね…笑。（小野）

■異動になり早一年。障がい者の就労支援について右も左もわからなかったわけではないですが、知識不足を痛感。わからないことは日々学び、視野を広げつつもピントを合わせた支援を心掛けたいと思います。来年度もどうぞよろしくお願いします。（菊地）

▲今回の取材を通して改めて感じたこと、福祉施設の食堂だからと言って商品に妥協はしないということ。これからもお客様に喜んでいただける商品を提供していきたいと思います。（手塚）

●「休日はサッカー観戦」の自分にとって、1月2月のシーズンオフは貴重な冬眠（？）の時期。家から一歩も出ない休日も当たり前。「こんなことではいかん！どこかへ出かけよう」とある日思い立ち、考えに考えた末、向かった先は…ネットカフェ。いいのかこれで？（松本）